

いいで農村未来研究所の設立趣旨

理事長 糸長浩司

農山村の暮らしをどう維持し、かつ再生させるか、問われて久しい。地球温暖化、異常気象、戦争・紛争の勃発する今日、食料・水・エネルギー・安心できる住と職そして家族と仲間を、身近な生活エリアの中で確保できることは、世界の人々が希求するものである。

日本の農山村にはこれらの生存条件のための資源とそれを活用する地域的な力は残っている。

日本の農山村は、人口減少、過疎化、頻繁となる地震・豪雨災害、農林産物の市場の不安定性等、厳しさ状況に立たされているが、これらの地域資源と人材、伝統文化を生かした、大地とともに生きる豊かで楽しい暮らしを追求できる場である。

農村の未来をより明るく描き、それに向けて行動することが、人類がどう地球と向き合い生きるかの回答でもある。

農村の未来を描く、語り、行動するための全国的な集いと交流の場ともしたい。

1970年代から、故青木志郎先生(東京工業大学名誉教授、農村計画学会第三期会長)らを核として研究者と飯豊町民、行政との協働したまちむらづくりが継承されてきた。かつて飯豊町庁内に設置された農村計画研究所の再興として「一般社団法人いいで農村未来研究所」を設立、町民と行政との協働活動を支援しつつ、全国農村計画講座の継承としての農村未来塾の開催を支援していく。

いいで農村未来研究所の3つの役割

機能

教育

- ・まちむらづくり塾
- ・人づくり
- ・町民ニーズへの対応
- ・農村の意義と魅力の発信
- ・農村現場実践的学び
- ・農村SDGsの学び（子どもから）

研究

- ・農村計画アーカイブ
- ・農村計画の実践知の発信と交流
- ・調査研究の実施
- ・研究所年報の発信

コンサルティング

- ・地区別計画の推進支援
- ・SDGs総合計画推進支援
- ・まちづくりカフェ
- ・農村資源を生かした
もの・エネルギーづくり助言

目指すもの

★飯豊町における住民参画のまちむらづくりの歴史を継承し、農村の価値を未来につなげるために、まちむらづくりの担い手を育成する。

★飯豊町の環境・社会・経済の3側面からの発展に貢献し、広く町外の人々や研究者との交流を促進する。

★地球環境危機の課題を抱える今、農村での自然と共生・共存した暮らし、農村資源の持続的な管理と活用による魅力的な暮らしの知恵と実践を発信する。

★農村の伝統的な知恵を再考・再興・活用し、さらに新しい課題に関する知と実践手法について学び考え、実践していく機会を提供する。

運営方針

- ◆組織の趣旨に賛同する多くの町民、町外市民との協働で活動する。
- ◆多様な情報の欲しい人、まちづくり相談をしたい人が自由に集える場づくりをする。
- ◆環境問題、農村計画や地域デザインのための資料が収蔵され誰でも利用できる。
- ◆各分野の専門的なアドバイザーがいる。